

まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 30 年 6 月 1 日（金） 18：30～20：16
場 所：総合福祉センター「しゃるる」（1 階）大ホール
出席者：町内会長・自治会長 59 人

1. 開 会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇 談

(1) 今後のまちづくり（町長）

※質疑応答

(2) 町内会・自治会からの質問・意見に対する回答

I 住民生活課関連の回答（住民生活課長）

○2018 年度からの国保 ○道路のスリット対策 ○交通安全対策

II 総務課関連の回答（総務課主幹）

○防災対策

III 建設水道課関連の回答（建設総括）

○南通り街路樹剪定 ○松栄団地駐車場現地調査 ○松栄団地床下防水対策

IV ブランド推進課関連の回答（ブランド推進課長）

○角田地域の商店出店

※質疑応答

(3) 町からの情報提供（各課所長説明）

I 開拓 130 年・町制施行 70 年記念式典（事業）

（資料 1） 総務課

II 避難行動要支援者名簿（資料 2） 総務課

III 第 6 次総合計画（資料 3） 経営企画課

IV 出前型政策・施策説明会の活用

（資料 4） 経営企画課

V 健康づくり（資料 5） 保健福祉課

VI 安全共済保険（資料 6） 教育委員会

(4) 自由懇談

4. その他

5. 閉 会

《今後のまちづくりへ質疑等》

町内会・自治会：政策②長寿社会を健康で豊かに生きるまち！安心・安全な暮らしを守るという中に、JR 利用促進事業に取り組みますと書いてあるが、JR の存続が危ぶまれている中で、室蘭線がどのようになるのか。2～3 日前の新聞にも、知事が JR に乗って「なくしてはだめだ」と話していたが、わかる範囲で教えてほしい。

町長：報道でもあったとおり、一昨日、岩見沢市で室蘭線沿線（沼ノ端から岩見沢まで）自治体 2 市 3 町の首長が集まり、知事と JR 副社長と意見交換を行った。前々から JR の方針が出されており、輸送密度が 200 人未満の場合はバスなどへの転換、200 人以上 2,000 人未満の場合は鉄道を維持する仕組みについて検討するという事になっている。室蘭線は、輸送密度が 484 人でバス転換という厳しいものではなく、これから鉄道を維持していくということで、国・JR・北海道・沿線自治体という仕組みの中で、どのように鉄道を維持していくのかということ、費用面も含めて検討していくことになる。先日の意見交換は、その意思確認をするということで集まった。今後は、協議体になるかどうかかわからないが、協議の場を設けながら費用負担の問題、さらには利用促進策といった内容を議論していくことになる。近々、国の概算要求の国土交通省と財務省の折衝が行われる予定であり、それまでの間にある程度の方向性を出して、国からの支援を求めていくという流れで進めていく。JR の経営状況は、室蘭線だけで年間損益が 12 億円であり、JR 単独の対応は難しく、国・北海道の支援さらには、JR の経営努力、そして沿線自治体の費用負担ということになっていくと考えている。

《町内会・自治会からの質問・意見に対する質疑等》

町内会・自治会：防災に係る中里幹線地中化について、国（農林水産省）が施設所有しているということで改修などができないとの話だった。地域では、幹線沿いの草刈りや柵の手入れなども行っている。町には、すぐにはできないかもしれないが、融雪期や豪雨時に災害が起きることの内容に、防災対策の面で国への要請などの対応をお願いしたい。また、国道の交通安全対策についても、協議はしているようだがなかなか進まないという話だった。高校生の交通安全の面から強く要望してもらいたい。町内会としても協力はしていきたい。

町内会・自治会：2018 年度からの国保について、平成 28 年度の決算概況では概ね 21 億円の国保収入のうち、町が負担している部分は 26%程度、北海道が 4%程度、残りが国の交付金となっていると思う。その中で、北海道が保険者になるが、町も保険者の一端を担うという話のようだが、全て北海道が行うということではなく、町も中に入って両方で進められていくということか。また、決算が不足してきたときに町から繰入金が出されるということはあるのか。

住民生活課：1 点目の北海道と町の両方が保険者になるのかということについては、共同の保険者になり北海道が財政面を主体的に担い、市町村は従来どおりの窓口での医療費立替払いや保険証の交付、課税・徴収、各種保険活動を行う。2 点目の町からの繰入金については、北海道全体が一つの保険者にまとまることになり、その中で、北海道と市町村で納付金や負担金など金銭のやり取りが出てくる。平成 30 年度については、2 年前（平成 28 年）の医療費実績をもとに国、北海道の補助金などが積算され、当初の金額が決められている。その清算を平成 30 年度中にできるかということ、越年することになる。このようなことから、平成 30 年度分が不足してしまうからといってすぐに基金を取り崩すなどということではなく、次年度以降に精算分を含めて対応していくという流れになる。

《町からの情報提供に関する質疑等》

特になし

《自由懇談》

町内会・自治会：昨年9月24日の栗山天満宮例大祭宵宮祭で、北長沼から大渋滞だった。そこで、この祭りの流入人口が分かっていたら聞きたい。

ブランド推進課：栗山天満宮例大祭の来場者数は、158,100人です。(注：この数値は、北海道実施による観光入込客数調査の数値で、実人数ではありません)

町内会・自治会：大変賑わいがあり、無くすことのできないイベントではないと考えている。渋滞緩和のための道路の拡幅などは難しいと思うが、老舗まつりもくりやま夏まつりも賑わっているので、地域おこしという観点で積極的に取り組んでほしい。栗山天満宮前の公園通りは、数年前まで提灯のついたアーチもあって一番の賑わいがあった。数年前に費用がかさむということで撤去したとの話があるが、見慣れていた光景がなくなり一抹の寂しさも感じている。商店街も疲弊していることから、宣伝などに対する助成をしてはどうか。

町長：交通渋滞の関係については、岩見沢・由仁・長沼方面の全ての道路が渋滞しているということで、北海道開発局と話を進めている。昨年も、栗山天満宮例大祭時の道路の利用状況調査を行っていただき、道路拡幅の要望もしている。改築予算がつかないという状況となっているが、岩見沢方面から右折するレーンがない交差点が7つほどあるので、右折レーンを整備していただいて、将来的に4車線化するという要望の仕方を北海道開発局から指導をいただいているので、道路改良も含めて、渋滞緩和に対する道路拡幅の要望をしていきたい。栗山天満宮例大祭のあり方については、議会とも協議をしながら別に機会にお話しするようにしたいと考えているが、今年から実行委員会形式で全町挙げての祭りとして進めていく予定。これまでは栗山天満宮の祭りということで、政教分離の関係で行政が関わることがどうかという意見もあったが、神事と祭りをきちんと切り分けて、栗山町の秋まつりということで全道、全国にPRをしていきたいと考えている。提言のあった内容についても持ち帰って検討したい。

町内会・自治会：政策②「長寿社会を健康で豊かに生きるまち！安心・安全な暮らしを守る」の中にある新規事業の「官民協働の除排雪システムづくりを進めます」ということだが、具体的にどのような形で進めていくのか。また、日出地区は夕張に近いということで雪が多く、除雪については自助と共助の精神で行っている。町からも除雪に対する助成をしてもらっているが、一人暮らし世帯のみが対象で、夫婦や高齢世帯は対象にはなっていないようである。2人暮らしといえども高齢者が多いので、そういう方に対するフォローをどのようにされるのかを聞きたい。除排雪の問題は、日出地区に限らず大きな課題だと思う。

保健福祉課：除排雪については現在、官として建設水道課を中心とした一般的な対応、福祉サイドによる業者委託による高齢・障がい者世帯を中心とする助成、社会福祉協議会による「愛らぶ活動事業」の3つがある。高齢化も進み、業者も飽和状態となり、地域の支え合いも難しくなっている。町長公約の内容については、これまでの課題や現状を精査し、関係機関・団体などと調査・研究・協議をさせていただきながら、町民の意見も踏まえて効果的な事業などを提示し「官民協働の除排雪システムづくり」を進めたい。

町長：これから先、高齢化が進行していく中で雪対策は避けて通れないと考えている。今の段階から将来を見据えた除雪システムを作っていかなければならないと思っており、調査・研究の内容について、先進地では小型除雪機の貸出制度を作っている自治体や、置き雪対策で除雪用の羽根に置き雪しないような加工をしているところもある。除雪用の羽根に置き雪しないような加工は、相当の費用がかかることから調査・研究が必要であり、まずはモデル的に実施し効果を発するのかどうかを確認していくことになる。